

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	名古屋工学院専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	ゲーム総合学科 ゲームプログラミングコース	夜・通信	13 単位	13 単位	
	ゲーム総合学科 ゲームCGコース	夜・通信	13 単位		
工業専門課程	情報総合学科	夜・通信	13 単位	13 単位	
工業専門課程	情報システム科 システム開発コース	夜・通信	10 単位	10 単位	
	情報システム科 先端情報技術コース		10 単位		
	情報システム科 ネットワーク・セキュリティコース		10 単位		
工業専門課程	AIイノベーション学科 AIシステムコース	夜・通信	10 単位	10 単位	
工業専門課程	電子情報学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	ゲームサイエンス学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	ゲームCG学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	電業技術学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	情報処理科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	機械CAD設計科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	機械工学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	電気工学科	夜・通信	7 単位	7 単位	

工業専門課程	高度情報学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
工業専門課程	電子情報研究科	夜・通信	4 単位	4 単位	
工業専門課程	電気工学研究科	夜・通信	4 単位	4 単位	
工業専門課程	ゲーム研究科 ゲームプログラミングコース	夜・通信	4 単位	4 単位	
	ゲーム研究科 ゲーム CG コース		4 単位		
工業専門課程	産業技術研究科	夜・通信	4 単位	4 単位	
文化教養 専門課程	映像音響科 映像コース	夜・通信	7 単位	7 単位	
	映像音響科 音響・照明コース		7 単位		
文化教養 専門課程	映像メディア科	夜・通信	7 単位	7 単位	
文化教養 専門課程	映像メディア研究科	夜・通信	4 単位	4 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

名古屋工学院専門学校公式 Web サイト --> 学校紹介 --> 情報公開 --> 高等教育の修学支援新制度 確認申請書
【URL】 https://www.denpa.ac.jp/school_guide/disclosure/study_support.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋工学院専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人電波学園公式 Web サイト「学園概要」「役員名簿・規程等」 https://www.denpa.jp/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士	R7 定時評議 委員会終了 ～R11 定時 評議委員会 終了	法務担当
非常勤	税理士	R7 定時評議 委員会終了 ～R11 定時 評議委員会 終了	法務・財務担当
非常勤	弁護士	R7 定時評議 委員会終了 ～R11 定時 評議委員会 終了	労務・法務担当
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋工学院専門学校
設置者名	学校法人電波学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。</p> <p>学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>名古屋工学院専門学校公式 Web サイト --> 学校紹介 --> 情報公開-->シラバス 【URL】 https://www.denpa.ac.jp/school_guide/disclosure/syllabus.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験（前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」）および追試験、編入学試験等を行う。

これら試験の施行ならびに配点については、入学時に学生へ配布する学生便覧（「入学・卒業・表彰等に関する規程」「入学・卒業等に関する細則」）に定められている。その内容については、入学時ならびに試験受験前等に適宜クラス担任が説明を行う。評価方法については、授業計画書(シラバス)に記載されており、担当教員が初回の授業で説明する。

試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。

- 1) 試験時間は 60 分を基準とする。
- 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。
- 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。
- 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。
- 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況、以下同じ）を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。
- 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。
実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。
- 7) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。
- 8) 5)～8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。
- 9) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1)～9) に準ずるものとし、その評価において「F」（60 点未満）の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績の評価については、学生便覧(「入学・卒業・表彰等に関する規程」)に定められている。その内容については、入学時ならびに試験受験前等に適宜クラス担任が説明を行う。</p> <p>評定に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前期末試験のみまたは後期末試験のみの学科目について、それぞれの点数を評定の成績とする。 2) 前期末試験および後期末試験を通して実施される通年の学科目については、各期の評定が確定したのち、平均点(1点未満については切り上げる)を評定とするが、学科目の内容が独立的でなく発展的である場合には年度始めに周知することにより後期末試験の評価点を評定とすることができる。 3) 1年を超えて学習する学科目については、学年毎に1)または2)を適用する。 4) 総評は、それぞれの学年毎に総点数を総学科目数で除した点数とし、1点未満については切り上げる。 4) 成績の評定は、次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> S (90~100点) 英文 A (90~100点) A (80~89点) B (80~89点) B (70~79点) C (70~79点) C (60~69点) D (60~69点) F (60点未満) E (60点未満) 5) 試験において不正行為をした者の評定は、「入学・卒業等に関する細則」に定められている。 6) 定期試験を受験できなかった学科目及び評定が「F」(60点未満)の学科目については、「入学・卒業等に関する細則」に定められている実技を伴う学科目を除き追試験を受けることができる。 <p>クラス単位で、「評定(点数)」ならびに「総合点」「平均点」「順位」を一覧表にまとめて、クラス内における客観的な指標として用いている。また、学生の申請により成績証明書(個票)を発行している。成績証明書には、5)の評定(S、A、B、C、F)を用いている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>名古屋工学院専門学校公式 Web サイト --> 学校紹介 --> 情報公開 --> 高等教育の修学支援新制度 確認申請書【URL】 https://www.denpa.ac.jp/school_guide/disclosure/study_support.html</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業または進級の認定基準については、学生便覧(「入学・卒業・表彰等に関する規程」)に定められている。その内容については、入学時ならびに試験前等に適宜クラス担任が説明を行う。</p> <p>卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <p>■卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」(60点)以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 <p>学納金が全納されていること。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>全学生に学生便覧を学内ポータルサイトで配布・掲示、その中で公表している。</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	名古屋工学院専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp/
収支計算書又は損益計算書	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp/
財産目録	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp/
事業報告書	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp/
監事による監査報告（書）	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	ゲーム総合学科	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	157 (4320 単位時間)	42 (1008)	93 (2232)	22 (1080)	0 (0)	0 (0)
			157(4320 単位時間)				
学生総定員 数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		342人	3人	12人	12人	24人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。</p> <p>学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。</p> <p>試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <p>卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」(60点)以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
89人 (100%)	0人 (0%)	67人 (75.3%)	22人 (24.7%)
(主な就職、業界等)			
・株式会社カプコンなどゲームコンテンツ・CGコンテンツ制作業界			
(就職指導内容)			
・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 ・SPI対策および面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
・CGクリエイター検定、色彩検定			
(備考) (任意記載事項)			
「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を()内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
341人	9人	2.6%
(中途退学の主な理由)		
学生生活不適應・修学意欲低下、経済的困窮、就職・起業等、心神耗弱・疾患、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	情報総合学科	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	158 (4320 単位時間)	48 (1152)	91 (2160)	19 (1008)	0 (0)	0 (0)
			158(4320 単位時間)				
学生総定員 数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		332人	1人	18人	17人	35人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>授業計画書（シラバス）は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。</p> <p>学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書（シラバス）」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験（前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」）および追試験、編入学試験等を行う。</p> <p>試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点（出席および受講の状況、以下同じ）を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」（60点未満）の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。 						
卒業・進級の認定基準						
<p>（概要）</p> <p>卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <p>卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。</p>						

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
89人 (100%)	0人 (0%)	87人 (97.8%)	2人 (2.2%)
(主な就職、業界等)			
・日本システム(株)、NTPシステム(株)、SGシステム(株)などのIT業界			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 ・SPI対策および面接指導 			
(主な学修成果(資格・検定等))			
・データベーススペシャリスト試験、ネットワークスペシャリスト試験などの情報処理技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			
「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を()内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
356人	10人	2.8%
(中途退学の主な理由)		
学生生活不適応・修学意欲低下、経済的困窮、就職・起業等、心神耗弱・疾患、転学等、病気・けが・死亡(心神疾患を除く)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	情報システム科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	115 (3240 単位時間)	48 (1152)	51 (1224)	16 (864)	0 (0)	0 (0)
			115(3240 単位時間)				
学生総定員 数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		210人	0人	11人	13人	24人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>授業計画書（シラバス）は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。</p> <p>学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書（シラバス）」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験（前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」）および追試験、編入学試験等を行う。</p> <p>試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点（出席および受講の状況、以下同じ）を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」（60点未満）の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。 	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。</p> <p>卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
63人 (100%)	0人 (0%)	54人 (85.7%)	9人 (14.3%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・(株) 百五デジタルソリューションズ、日本情報産業(株)などのIT業界 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 ・SPI対策および面接指導 			
(主な学修成果(資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> ・応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士試験などの情報処理技術者試験 			
(備考) (任意記載事項)			
「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を()内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
212人	9人	4.2%
(中途退学の主な理由)		
学生生活不適応・修学意欲低下、経済的困窮、就職・起業等、心神耗弱・疾患、転学等		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	A I イノベーション学科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	116 (3240 単位時間)	42 (1008)	61 (1476)	13 (756)	0 (0)	0 (0)
			116(3240 単位時間)				
学生総定員 数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		39人	0人	10人	7人	17人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。	

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (0%)	— 人 (0%)	— 人 (0%)	— 人 (0%)
(就職指導内容) 2026年度に初めての卒業生を輩出予定			
(就職指導内容) ・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 ・SPI対策および面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・基本情報処理技術者試験、Python3 エンジニア認定基礎試験など			
(備考)（任意記載事項） 「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	3人	8.8%
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應・修学意欲低下、病気・けが・死亡(心神疾患を除く)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	電子情報学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	74 (2304 単位時間)	57 (1404)	6 (144)	11 (756)	0 (0)	0 (0)
			74 (2304 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	17人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	12人 (57.1%)	9人 (42.9%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <ul style="list-style-type: none"> KDDIエンジニアリング（株）・中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（株） NDS（株）・NDSソリューション株式会社など 国家公務員や通信工事会社 			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 SPI対策および面接指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事担任者総合通信、第一級陸上無線技術士 			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している</p> <p>2025年度から学生募集停止にした学科であって、在籍する学生のみが在籍する学科となっている。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41人	2人	4.9%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>学生生活不適應・修学意欲低下</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	ゲームサイエンス学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	83 (2160 単位時間)	36 (864)	42 (1008)	5 (288)	0 (0)	0 (0)
			83(2160 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	45人	0人	5人	5人	10人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31人 (100%)	16人 (51.6%)	14人 (45.2%)	1人 (3.2%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社アプライド・システムズなどソフトウェア開発業界 			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 SPI対策および面接指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> CGクリエイター検定 			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	3人	5.2%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>学生生活不適應・修学意欲低下、</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	ゲームCG学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	84 (2160 単位時間)	3 (72)	72 (1656)	9 (432)	0 (0)	0 (0)
			84(2160 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	42人	0人	5人	7人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	10人 (83.3%)	2人 (16.7%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ・モデリング関連業界			
(就職指導内容) ・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 ・SPI対策および面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・CGクリエイター検定、色彩検定			
(備考) (任意記載事項) 「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を()内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	3人	8.6%
(中途退学の主な理由) 学生生活不適応・修学意欲低下、経済的困窮		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	電業技術学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	68 (2250 単位時間)	39 (1029)	10 (222)	18 (945)	1 (54)	0 (0)
			68(2250 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		39人	3人	3人	15人	18人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	14人 (93.3%)	1人 (6.7%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> (株)トーエネック (株) シーテック、(株) きんでんなど電気設備施工管理業界 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> 名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 SPI 対策および面接指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
<ul style="list-style-type: none"> 第一種電気工事士、2級電気工事施工管理技士補 			
(備考) (任意記載事項)			
「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46人	5人	10.9%
(中途退学の主な理由)		
<p>学生生活不適応・修学意欲低下、学力不振、転学等</p>		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	情報処理学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	72 (2160 単位時間)	36 (864)	24 (576)	12 (720)	0 (0)	0 (0)
			72(2160 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		87人	11人	7人	11人	18人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
61人 (100%)	2人 (3.3%)	57人 (93.4%)	2人 (3.3%)
(主な就職、業界等) ・岡谷システム（株）、（株）ネオなどのIT業界			
(就職指導内容) ・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 ・SPI対策および面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・基本情報処理技術者試験、応用情報技術者試験などの情報処理技術者試験			
(備考)（任意記載事項） 「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
102人	3人	2.9%
(中途退学の主な理由) 学生生活不適応・修学意欲低下、学力不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	機械CAD設計科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	65 (2160 単位時間)	29 (684)	12 (288)	24 (1188)	0 (0)	0 (0)
			65(2160 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		73人	2人	10人	9人	19人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。	

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	6人 (17.6%)	27人 (79.5%)	1人 (2.9%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社LIXIL ・株式会社メイテックフィルダーズ ・トヨタ自動車株式会社 ・株式会社コデラダイナックス 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 ・SPI対策および面接指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
<ul style="list-style-type: none"> ・3次元CAD利用技術者2級、2次元CAD利用技術者1級、2次元CAD利用技術者2級 			
(備考)（任意記載事項）			
「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70人	1人	1.4%
(中途退学の主な理由)		
就職・起業等		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	機械工学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	64 (2160 単位時間)	18 (504)	21 (504)	25 (1152)	0 (0)	0 (0)
			64(2160 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	68人	2人	8人	12人	20人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	3人 (15%)	17人 (85%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿日本鉄道株式会社 ・ヤマハ発動機株式会社 ・トヨタ車体株式会社 ・リンナイ精機株式会社 ・スズキ株式会社 			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 ・SPI対策および面接指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーケンス制御（シーケンス制御作業）3級 			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62人	3人	4.8%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>学生生活不適應・修学意欲低下、その他</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	電気工学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	71 (2160 単位時間)	44 (1206)	18 (432)	5 (288)	4 (234)	0 (0)
			71 (2160 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240人	261人	2人	9人	20人	29人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
83人 (100%)	67人 (80.7%)	15人 (18.2%)	1人 (1.1%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一財）中部電気保安協会、（株）トーエネック、日本テクノ（株）など 電気設備管理業界 			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 ・SPI対策および面接指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二種電気主任技術者、第三種電気主任技術者、エネルギー管理士 第一種電気工事士合格 			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
198人	2人	1.0%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>就職・起業等、心神耗弱・疾患</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	高度情報学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	76 (2160 単位時間)	21 (504)	42 (1008)	13 (648)	0 (0)	0 (0)
			76 (単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	12人	0人	10人	8人	18人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
・日本インフォメーション（株）、起業などのIT業界			
(就職指導内容)			
・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催			
・SPI対策および面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
・応用情報技術者試験などの情報処理技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			
「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	1人	9.1%
(中途退学の主な理由)		
病気・けが・死亡(心神疾患を除く)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	電子情報研究科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	35 (1080 単位時間)	11 (288)	15 (360)	9 (432)	0 (0)	0 (0)
			35(1080 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		16人	0人	3人	4人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	17人 (94.5%)	1人 (5.5%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察庁中部管区警察局、KDDIエンジニアリング株式会社など 国家公務員や家電業界 			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 ・SPI対策および面接指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一級陸上無線技術士、第一級陸上特殊無線技士、工事担任者総合通信、工事担任者第一級デジタル通信 			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>該当者なし</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	電気工学研究科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	32 (1080 単位時間)	10 (288)	13 (288)	9 (504)	0 (0)	0 (0)
			32(1080 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	67人	0人	7人	13人	20人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
76人 (100%)	0人 (0%)	76人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（株）中部電力、（一財）中部電気保安協会、日本電設工業（株）、（株）トーエネックなど電気業界 			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 ・SPI対策および面接指導 			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー管理士、第三種電気主任技術者 			
<p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54人	1人	1.9%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>就職・起業等</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門	ゲーム研究科	—	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
1年	昼	38 (1080 単位時間)	3 (72)	27 (648)	8 (360)	
			38(1080 単位時間)			
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人	19人	0人	8人	8人	16人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> ・履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること ・学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 ・欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 ・学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	20人 (95.2%)	1人 (4.8%)
(主な就職、業界等)			
・株式会社マトリックスなどゲームコンテンツ・CGコンテンツ制作業界			
(就職指導内容)			
・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催			
・SPI対策および面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
・資格受験なし			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	産業技術研究科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	35 (1080 単位時間)	12 (288)	13 (324)	10 (468)	0 (0)	0 (0)
			35(1080 単位時間)				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	13人	0人	5人	2人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	10人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ・株式会社 LIXIL ・ SANEI 株式会社 ・ 東亜エレクトロニクス株式会社			
(就職指導内容) ・学科独自の業界研究会・作品批評・企業説明会などの開催 ・SPI 対策および面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・3次元 CAD 利用技術者試験準1級、シーケンス制御（シーケンス制御作業）3級			
(備考)（任意記載事項） 「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門	映像音響科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	71 (2016 単位時間)	27 (648)	24 (576)	20 (792)	0 (0)	0 (0)
			71(2016 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		65人	0人	4人	7人	11人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書 (シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験 (前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」) および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 試験時間は 60 分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は 5 問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも 100 点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を 60 点とし、平常点 (出席および受講の状況、以下同じ) を 40 点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを 60 点とし、平常点を 40 点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を 60 点とし、平常点を 40 点の配点とする。 9) 5) ~8) までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を 80 点とし、平常点を 20 点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1 教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前 1) ~9) に準ずるものとし、その評価において「F」(60 点未満) の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。 	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。	

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	9人 (37.5%)	15人 (62.5%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> (株) 総合舞台はぐるま、(株) 光響社、他映像・音響・照明・舞台業界 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> 名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 SPI 対策および面接指導 			
(主な学修成果(資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> 舞台機構調整技能士・映像音響処理技術者資格認定試験 サウンドレコーディング技術認定試験・ProTools 技術認定試験 			
(備考) (任意記載事項)			
「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を()内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54人	4人	7.4%
(中途退学の主な理由)		
経済的困窮、就職・起業等		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門	映像メディア科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	74 (2160 単位時間)	24 (576)	33 (792)	17 (792)	0 (0)	0 (0)
			74(2160 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		45人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。	

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	15人 (68.2%)	5人 (22.7%)	2人 (9.1%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> (株) ブリングアップ史、(株) ビックカメラ、他映像・音響・照明・舞台業界 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> 名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 SPI 対策および面接指導 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
<ul style="list-style-type: none"> 舞台機構調整技能士・映像音響処理技術者資格認定試験 サウンドレコーディング技術認定試験・ProTools 技術認定試験 			
(備考)（任意記載事項）			
「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を（ ）内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49人	3人	6.1%
(中途退学の主な理由)		
経済的困窮、就職・起業等、転学等		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門	映像メディア研究科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	32 (1080 単位時間)	12 (288)	6 (144)	14 (648)	0 (0)	0 (0)
			32(1080 単位時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		22人	0人	3人	3人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書(シラバス)は、科目担当教員が年度の始めに作成している。教育課程編成委員会の委員より頂いたご意見を含め、社会で必要となる技術と知識を習得するための授業とするために、教員が創意工夫を凝らし計画している。 学内での公表については、学生が受講する初回の授業で「授業計画書(シラバス)」を示して、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 履修課程における学生の理解度を知り学習効果を高めるため、ならびに入学・卒業・修了等の認定の資料に供する目的で、定期試験(前期末試験、後期末試験「卒業試験または進級試験」)および追試験、編入学試験等を行う。 試験の施行および配点に関する主な内容は、次のとおりである。 1) 試験時間は60分を基準とする。 2) 学校長が適切であると判断した場合、参照資料の持ち込みが許可される。 3) 問題数は5問程度とし、配点と参照が認められている内容を明記すること。 4) 各学科目とも100点を満点とする。 5) 演習については、筆記試験を60点とし、平常点(出席および受講の状況、以下同じ)を40点の配点とするが、通常の授業における演習を定期試験にかえることができる。 6) 実験については、レポートを60点とし、平常点を40点の配点にするが、未提出のレポートがある場合は合格点を与えない。 7) 実習については、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点を40点の配点とする。 8) 卒業研究・事例等については、論文を60点とし、平常点を40点の配点とする。 9) 5)～8)までを除く他の学科目については、その学期始めに周知することにより、筆記試験を80点とし、平常点を20点の配点とすることができる。なお、講義と実習がほぼ同じ割合で行われる学科目については、それぞれの配点を同等とすることができる。 10) 1教科目の内容が広範囲にわたるとき、適切な内容で分割し個別に評価をすることができる。その場合、それぞれの評価は前1)～9)に準ずるものとし、その評価において「F」(60点未満)の評定がある場合は当該教科目を合格としない。なお当該教科目の最終的な評価は分割して得られた評価の平均点とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業または進級の認定に関する主な内容は、次のとおりである。 ・卒業または進級の認定は、次のすべてを満足した者とする。

<ul style="list-style-type: none"> 履修すべき学科目の成績がすべて「C」（60点）以上であること 学生の出席日数は、卒業または終業の日までに、その学年度における出席すべき日数の5分の4以上であること。 欠席日数の算出は、欠課6時限または遅刻12回をもって欠席1日として換算し欠席日数に加える。 学納金が全納されていること。
学修支援等
(概要) 担任による個人面談や国家試験や検定試験等に対する補習、補講、対策授業を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	13人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> (株) G-Take、(株) エヌティピー、(株) 東海テレビプロダクション、他映像業界 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> 名古屋工学院専門学校産業技術後援会会員企業による合同企業説明会等開催 SPI 対策および面接指導 			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> 舞台機構調整技能士・映像音響処理技術者資格認定試験 サウンドレコーディング技術認定試験・ProTools 技術認定試験 			
(備考) (任意記載事項)			
「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「授業科目の単位数」について用いる授業時数を()内に併記している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、教育懇談会の開催、臨床心理士によるカウンセリング 		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)	
ゲーム総合学科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	施設設備費
	2年次		750,000円	276,000円	〃
	3年次		774,000円	276,000円	〃
	4年次		774,000円	276,000円	〃
情報総合学科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
	3年次		774,000円	276,000円	〃
	4年次		774,000円	276,000円	〃
情報システム学科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
	3年次		774,000円	276,000円	〃
A I イノベーション学科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
	3年次		774,000円	276,000円	〃
電子情報学科	1年次	230,000円	750,000円	180,000円	〃
	2年次		750,000円	180,000円	〃
ゲームサイエンス学科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
ゲームCG学科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
電業技術学科	1年次	200,000円	750,000円	210,000円	〃
	2年次		750,000円	210,000円	〃
情報処理工学	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
機械CAD設計科	1年次	200,000円	750,000円	210,000円	〃
	2年次		750,000円	210,000円	〃
機械工学科	1年次	200,000円	750,000円	210,000円	〃
	2年次		750,000円	210,000円	〃
電気工学科	1年次	200,000円	750,000円	210,000円	〃
	2年次		750,000円	210,000円	〃
高度情報学科	1年次		750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
電子情報研究科	1年次		774,000円	180,000円	〃
電気工学研究科	1年次		774,000円	180,000円	〃
ゲーム研究科	1年次		774,000円	246,000円	〃
産業技術研究科	1年次		774,000円	180,000円	〃
映像音響科	1年次	200,000円	750,000円	234,000円	〃
	2年次		750,000円	234,000円	〃
映像メディア科	1年次	200,000円	750,000円	276,000円	〃
	2年次		750,000円	276,000円	〃
映像メディア研究科	1年次		774,000円	180,000円	〃

修学支援（任意記載事項）

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 名古屋工学院専門学校公式 Web サイト --> 学校紹介 --> 情報公開 --> 学校自己評価報告書 【URL】 https://www.denpa.ac.jp/school_guide/disclosure/
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）
■ 評価の基本方針 ※学校関係者評価の公表を以って代える。 1) 学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。 2) 自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から規程に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」を実施する。 当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果を、次年度の学校運営等の改善に活用する。評価結果と改善への取組を本校公式 Web サイトに掲載し広く社会へ公表する。 3) 評価委員の構成は、次のとおりである。 設置学科を、次の2学部6分野に分けて父母等2名（学部より1名ずつ）専攻分野に関する企業より6名（分野より1名ずつ）の計8名で構成されている。 なお、学部名および分野名は呼称であり、大学の学部とは異なるものである。 ○メディア学部 ①コンピューター・IT分野 ②ゲーム・CG分野 ③映像・音響分野 ○テクノロジー学部 ④電気・エネルギー分野 ⑤情報通信分野 ⑥機械・CADデザイン分野 ■ 評価項目 1) 教育理念・目標 2) 学校運営 3) 教育活動 4) 学修成果 5) 学生支援 6) 教育環境 7) 学生の受入れ募集 8) 財務 9) 法令等の遵守

10) 社会貢献・地域貢献 11) 国際交流		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
メディア学部在籍の父母等	令和8年4月～ 令和9年3月	父母等評価委員
テクノロジー在籍の父母等	令和8年4月～ 令和9年3月	父母等評価委員
株式会社シーエスイー (コンピューター・IT分野)	令和8年4月～ 令和9年3月	企業等評価委員
株式会社ナイトメアスタジオ (ゲーム・CG分野)	令和8年4月～ 令和9年3月	企業等評価委員
株式会社セントラルビデオ (映像・音響分野)	令和8年4月～ 令和9年3月	企業等評価委員
吉田電気工事株式会社 (電気・エネルギー分野)	令和8年4月～ 令和9年3月	企業等評価委員
メイワトラストテック株式会社 (情報通信分野)	令和8年4月～ 令和9年3月	企業等評価委員
株式会社 TMW (機械・CADデザイン分野)	令和8年4月～ 令和9年3月	企業等評価委員
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 名古屋工学院専門学校公式 Web サイト --> 学校紹介 --> 情報公開 --> 学校関係者評価報告書 【URL】 https://www.denpa.ac.jp/school_guide/disclosure/evaluation.html		
(備考)		
第三者評価は未実施であり、上記の内容は学校関係者評価の内容となっており、令和8年度より学校教育法等の改正に伴う、第三者評価の義務化により、今後において評価機構等の選定を行い、令和12年8月に実施する予定。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 【URL】 https://www.denpa.ac.jp/
--